

報道関係者各位

「第20回キッズデザイン賞」 ポラスグループから36作品が受賞 8年連続受賞、受賞点数は過去最多

ポラスグループ

ポラスグループ(本社:埼玉県越谷市、代表:中内 晃次郎)が開発した36作品が、2026年度の「第20回キッズデザイン賞」を受賞しました。

ポラスグループの受賞は8年連続となり、受賞点数は過去最多となりました。



キッズデザイン賞について

キッズデザイン賞は、「子ども自らが次の社会づくりに参画する」「子どもたちが感性や創造性豊かに育つ」「子どもたちが安全・安心に日々を暮らせる」「誰もが当事者として子育てに参加する」という目的を満たす、製品・サービス・空間・活動・研究の中から優れた作品を選び、広く社会に発信していくことを目的に2007年に創設されました。

(主催:特定非営利活動法人キッズデザイン協議会 <https://kidsdesignaward.jp/>)

受賞グループ企業 一覧

<感性・創造性育成部門>

企業名	受賞点数
株式会社中央住宅	15点
中央グリーン開発株式会社	4点
ポラスガーデンヒルズ株式会社	1点
ポラスマイホームプラザ株式会社	1点
ポラストウン開発株式会社	1点

<安全・安心向上部門>

企業名	受賞点数
株式会社中央住宅	2点
中央グリーン開発株式会社	2点
ポラスガーデンヒルズ株式会社	1点
ポラスマイホームプラザ株式会社	1点
株式会社ポラス暮らし科学研究所 / 株式会社住宅資材センター / ポラス株式会社	1点

<出産・子育て支援部門>

企業名	受賞点数
株式会社中央住宅	2点
中央グリーン開発株式会社	1点
ポラスガーデンヒルズ株式会社	4点

本件に関するお問い合わせ先

ポラスグループ ポラス株式会社 コミュニケーション部 広報課

TEL: 048-989-9151

ニュースリリース <https://www.polus.co.jp/news/>

〈感性・創造性育成部門〉

+ASOBIBA (株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部 設計一部)

リビングに「遊びの余白」を創出する『+ASOBIBA』の提案です。プランニングと内装デザイン、素材の3要素から子どもの楽しむ場、学びの場づくりに取り組みました。LDに接して設けることで、家族の気配を感じながら子どもの自発的な活動を促すことで、子どもは思いのまま散らかし、仕舞う楽しさを学びながら創造性を育みます。



KIRI infill (株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部 設計一部)

空間設計・素材・インフィル家具の三位一体で、子どもの自律性と感性を育むリビングデザイン。「段差・広々・可変」の3つの空間構成が子どもの主体的な振る舞いを引き出し、家族と心地よい距離感を保てる多様な居場所を生み出します。空間・素材・インフィル家具をオリジナル桐材「KIRINOKA」でトータルコーディネートし、統一感のある質の高いリビング空間に。桐の質感が五感に働きかけ、豊かな感性や情緒を育む環境をつくります。



ザ・ブルーヴ本八幡 森のボンエルフ (株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部 設計一部)

子ども達が見守られ、安心して遊べるボンエルフを内包する分譲住宅。花や木を愛でて、集まり、四季を皆で愉しむという機能を道路に付与した「生活の庭」をベースに、その発想をダイニング・キッチンの位置や土間収納の設置など内部構成にも波及させ、家の内外で子ども達の笑い声が響き、楽しく創造的に成長できる風景を目指しました。



マチエ桶川 グリーンラウンジのある住まい (株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部 設計一部)

5邸の中央に公道に面さない安全なプライベートパーク「グリーンラウンジ」をつくりました。敷地は共有としていないため、程良い距離感でのコミュニケーションを育みます。歩車分離による安全と、家庭菜園での食育を通じ、「孤育て」を防ぎ、「みんなで見守る育児」を目指した分譲住宅ならではの「向こう三軒両隣」を再生する住環境のモデルです。



CasaNE Project 一人と木と家の重なりが五感を育む街づくり (株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部 設計一部)

三方を歩道のない道路に囲まれ、共有地をつくることもできない敷地条件に対し、境界フェンスをなくして疑似的な広場空間を創出。利用率の低い2台目のカースペースを庭化することで敷地を活かし、安全性を確保しながらコミュニティ形成の場となる「カサネの庭」をデザインしました。さらに、天然素材を多用した五感に働きかける意匠など、子どもの体と心の発達を促す設計を重ね、豊かな住空間を提案しています。



リビングから街へ。本がつなぐ知的好奇心循環型の分譲住宅 (株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部 設計一部)

地域コミュニティの希薄化や地域書店の減少といった社会課題に対し、住宅会社だからこそできる住まいづくりを目指した分譲住宅です。住まいを単なる生活の場ではなく、家族・分譲地・地域をつなぎ、地域文化を育む拠点として位置付け、建築として「本」を軸にした空間やスケールを設計するだけでなく、住まい手と地域書店「須原屋書店」をつなぐ体験(ワークショップ)までデザインしました。



みのりこまちノ割 (株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部 設計一部)

150~173㎡のバリエーションのある敷地面積で2階建と平屋を混在させた全17邸の分譲住宅。緩やかな曲線を描く開発道路と2m幅の歩行者専用フットパス、平屋の配棟計画により立体的な街の余白を創出することで、分譲地内の環境格差を解消。地役権を設定した住戸では、COMMONフットパス「みのりこまち」でセミパブリックな庭空間を提供し、独立した庭空間をもつ住戸も、オープン外構により、街全体の豊かさを共有します。ポタジェや果樹で家産家消のグリーンサイクルを暮らしに取り込み、庭を通じてみのり豊かなコミュニティを育みます。



路地広場のある街 (株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部 設計二部)

南道路付けの整形地2邸と旗竿地3邸からなる5邸の分譲住宅です。新築住宅のコミュニティ形成の課題に対して、各々の住宅の余白となってしまう部分を合わせることで開放的な広場を分譲地中心に計画しました。



余白の広場を紡ぐ街（株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部 設計二部）

クルドサックがある行き止まり道路に接道し、手前整形地と旗竿敷地で構成されます。表と裏のように独立してしまうような区割計画に対して、街全体で「コア」となる空間を計画し、住民が自然と集まり、街全体にコミュニティが広がる街並みを計画しました。クルドサックで人が憩い楽しむように、街全体に住民同士のコアとなる広場を提供し、そこを起点に街全体に広がるコミュニティを形成します。



分断された敷地を庭と緑が繋ぐ街 リーズン南流山コネクトグリーン（株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部 設計二部）

道路で分断された街区を、「庭と緑の空間」で一体化させることで、街全体を子どもの健やかな成長を支える場としてデザインしました。四季の移ろいを感じる樹木や、野菜の収穫を楽しむ「ポタジェ（家庭菜園）」を各住戸のアプローチやリビングと連動させています。これにより、子どもたちが日常の暮らしの中で自然に土に触れ、植物の生長を観察し、収穫を体験する「食育」の場を創出しています。



道路が広場に変わる、子どもが主役のコモンズ街区（株式会社中央住宅 マインドスクエア事業部）

住宅地内の私道回転広場を、車の通行と子どもの遊びを両立できる可変的な広場として設計しました。通常は車両の回転スペースとして機能するが、通行制御により車の侵入を抑制することで、路地から安全な遊び場へ切り替わる仕組みを備えています。また、景観協定を通じて維持管理のルールを住民間で共有し、安全に過ごせる環境を継続的に保つ仕組みを整えています。広場には共有樹木を配置し、植樹やサインプレート制作のワークショップに子どもたちが参加することで、空間づくりの過程に関わる機会を創出しました。



子どもの緑の教育を100年後の未来に残す「繋ぎ庭」（株式会社中央住宅 マインドスクエア事業部）

在来種を中心とした植栽計画で、地域に開かれ、街に溶け込む「繋ぎ庭」を計画しました。本計画地には、緑の環境を守り、未来へと継承していくための「学園町憲章」があります。しかし、法的拘束力が無く、緑の喪失を抑制する力にはなっていません。そこで、独自の「緑の協定」を制定し、庭の維持管理のルールを住民同士で共有し、各邸に記念樹を無償提供することで、子どもたちの成長とともに果樹を育てる喜びを共有しながら自発的な管理につながる仕組みを構築しました。



五感で雨を楽しむレジデンス「ルピアコート大宮 The VISTA」（株式会社中央住宅 マインドスクエア事業部 マンションDv）

「億劫なもの」と捉えがちな「雨」を、子どもの雨への興味を損なわずに、親子で心地よく感じることができる空間です。ゆらぎを感じられる水盤、雨音を活かした音楽やアート、雨が降ることで変化する空気や色彩など、四季を通して五感を刺激します。雨の日のもつ情緒を体感することで、雨を楽しみながら子どもの感性を育みます。



Sumi-Ka+HITO-TO-KI（株式会社中央住宅 不動産ソリューション事業部）

高低差のある立地条件を活かした「スキップフロア」のある暮らし提案を実現しました。ツリーハウスのように回りながら各々の階が変わることで、子どもの感性や創造性につながる「遊び心」を大切にしています。



自然が巡る住まい（株式会社中央住宅 不動産ソリューション事業部）

リビングと庭をシームレスにつなげた「めぐりのま」を計画した3邸の分譲住宅。リビングと庭が一体となった「めぐりのま」は、子どもたちが室内と同じ安心感の中、太陽の光や季節の移ろいといった自然の巡りを五感で感じることができる新たなリビングです。自然の巡りが入りこむ、中と外を巡る住まいを実現しました。



トライラウンジー 共有空間で紡ぐ、三戸一体の「育みの庭」ー (中央グリーン開発株式会社)

変形敷地を3邸で最大限活用するため共有空間を設けた分譲住宅です。旗竿地の閉塞感を解消し、コモンスペースを中心に住民交流を促進しています。交通量の多い前面道路から奥まった場所に、安全な遊び場と豊かな景観を確保。エントランスとサイクルスペースのデザインにより、3邸それぞれがこの場への充足感と愛着を感じる住環境を実現しました。



ー共庭の景ー敷地条件を活かした3つの庭のある2世帯分譲住宅 (中央グリーン開発株式会社)

埼玉県唯一の風致地区エリアに建つ2邸の分譲住宅です。公道面の整形地と旗竿地の「手前・奥」の関係でできた区割計画となっており、壁面後退の制限や敷地延長部分によって、各邸の有効活用できていない土地を地役権設定によりシェアすることで3つの庭空間を創出しました。



子どもたちの個性を引き出す魅せる収納「ミセラック」のある暮らし (中央グリーン開発株式会社)

「隠す収納」から、子どもたちの個性を引き出す「魅せる収納」へ。全居室に浅型可動棚「ミセラック」を設置し、限られた空間でも収納効率と開放感を両立。お気に入りの飾り、ライトアップで演出することで、自ら空間を編集する喜びや、物を大切に作る心を育みます。



ビューティフル ウィンドウズ タウン ー里帰りしたくなる街づくりー (中央グリーン開発株式会社)

東京都足立区にある全214邸の街づくりプロジェクトです。足立区初の「防犯設計タウン」認定を受け、見通しの良い街区や「灯かりのいえなみ協定」を導入しサステナブルコミュニティを形成。住民主体のコミュニティ活動や景観協定により、長期間美しい街並みと交流が保たれる「経年美化」を実現しています。



雨水貯留の「堰」から、街を編み上げる「創造の路地」へ (ボラスガーデンヒルズ株式会社)

子どもの目線では、高い「堰(せき)」は街との緩やかなつながりを遮る「壁」でしかありません。この治水上の制約や風致地区の制限を、好奇心を揺さぶる「遊びのポテンシャル」として読み替え、街を編み上げる「創造の路地」へと再生しました。地役権により本来立ち入る対象ではなかったインフラをフットパスとして開放。自然石の起伏や菜園が五感を刺激し、既製品の遊具に頼らず自ら遊びを発明できる環境を構築しました。路地での体験が街全体へ連鎖し、子の豊かな感性を育む「安全な器」となるデザインです。



「街のギャラリー」としての出窓が子どもの豊かさを育む街 育実(はぐくみ)の丘上尾 (ボラスマイホームプラザ株式会社)

各邸の「出窓」を“街のギャラリー”として提案する分譲住宅です。住人の個性や四季のしつらえが街を彩り、ネット社会で体験機会が減少する子どもたちが、歩きながら多様な感性に直接触れる場を創出しました。安全な遊歩道での交流を通じ、街全体で子どもたちの成長を見守る。そんな豊かな心と絆を育む街づくりを目指しました。



バックヤードストレージのある家 (ボラストウン開発株式会社)

都市部の敷地面積約100㎡の分譲住宅において、限られた敷地を有効活用し、屋外収納スペースを創出しました。従来はデッドスペースになりがちな犬走りを家族専用の屋外収納スペースとして再生。自転車や外遊びのおもちゃ、アウトドア用品などを気軽に収納できる環境を整え、家族で過ごす時間や子どもの体験の機会を創出しています。



〈安全・安心向上部門〉

マチエ東川口 ミチトウチ（株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部 設計一部）

庭を建物に取り込んだ「内庭」が寄せ合う分譲住宅。壁や開口部を備え、位置や仕切り方に変化を付けることで、向かう側が見え隠れするようになっています。共用路地沿いに個人の居場所がありながらも、全体では皆の気配を感じるひとつなぎの空間を創出し、更に住み手が互いの距離を調整することができます。身近な家先でのなりわい交流も見据えた集落の様な街作りをしました。



コミュニティ創成を促す空間を持つ街 フランガーデン三郷（株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部 設計二部）

協定道路部分に広場のような機能を持たせることで、分譲地内に安全な「子供の遊び場」を創出するプロジェクトを立ち上げました。該当する住戸の皆様が敷地を持ち寄る「協定道路（共有地）」とすることで、旗竿地の計画・ライプラインの引き込みが可能となりました。この条件を最大限に活かし、分譲地の中心に広場のような開放的な空間を設計しました。



モビリティ収納空間から生まれる「軒先コミュニティ」（中央グリーン開発株式会社）

モビリティの「保管」から「収納」へ。建物と一体化した「モビリティ収納空間」を最優先で設計しました。この空間が、愛車を慈しむ場であると同時に、住民同士の日常的な交流が生まれる「軒先コミュニティ」の拠点となります。そこに生まれる人の目による自然な見守りが、子どもたちが安心して遊べる環境を創出しています。



とものまち 都市部狭小地におけるシェアガーデン型分譲住宅（中央グリーン開発株式会社）

住宅に囲われた狭小住宅において、新たに「とものにわ」を創り、シェアすることで子育て世代の小さな交流に貢献する街並みで孤立の防止を目指しています。日常利用するスロープや通路と室内外の移動が容易なため、中央のシンボルツリーを囲うベンチが交流の場として活用される場をつくりました。



子どもの世界を豊かにする、分譲地のかたち、～半径100mの小さな冒険。～（ポラスガーデンヒルズ株式会社）

子どもの生活圏である「家のすぐ周り」を、のびのびと自分らしく過ごせる遊び場にする街づくりです。公園に設けた段差のあるウッドデッキや、玄関アプローチ等への遮熱舗装、庭にシェードを導入。夏場の熱中症リスクを抑えつつ、子どもたちが玄関を出てすぐにほどよい起伏のある地形で元気に体を動かし、五感を育める「安心の場」を考えました。



未来へ備える、いつもの暮らし FORESTLE 大和田 Gxgrade（ポラスマイホームプラザ株式会社）

災害時でも子どもの日常生活を継続し親子が安心して過ごせる「在宅避難」を可能とする全17邸の分譲住宅です。再生可能エネルギーを活用したGX志向型住宅を導入し、フェーズフリーの考え方で通常時と非常時を無理なくつなぐ住環境としました。防災や環境への取り組みを日常に取り入れることで親子が自然と学べる住まいと街を実現しました。



しっくいシュクル（株式会社ポラス暮らし科学研究所 / 株式会社住宅資材センター / ポラス株式会社）

住空間の空気を清浄に保つ機能性と、職人の手仕事による柔らかな表情を両立した天然石灰の漆喰塗り壁です。かつての土壁のように、室内の湿度や匂いを自然の力で調整します。工業製品が多い現代において、子どもが毎日触れる壁に本物の素材感と安全な空気環境を提供し、健やかな成長を支えます。



〈出産・子育て支援部門〉

MEGURIの杜（株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部 設計二部）

近年活発に住宅開発が進む「さいたま市緑区三室」に計画され、緑豊かな街を巡りながら住民同士が絆を育むことを目指した全22棟の分譲住宅です。沿道をグリーンベルトで包みながら、街区内に緑道をめぐらせて回遊性を高めることで、互いの顔が見える住環境を整えました。緑を通して沿道や庭先に意識が向けられ、自然な会話が生まれる街区空間の創り込みにより、子育て世帯も周囲とのつながりを深めやすく、日々の暮らしの中で確かな安心を実感できる街を提案しています。



ただいま導線で片付け習慣が身につく「つながるクローク」（株式会社中央住宅 マインドスクエア事業部 マンションDv）

玄関からリビングへの帰宅動線を、自然と片付けが身につく「ただいま導線」として再構築。「つながるクローク」を組み込むことで子育て世帯の「片付かない」を解決。子どもの自立促進にも寄与します。成長に合わせての可変性・思春期に合わせた仕様により、持続的な使いやすさも実現します。また、作業効率を高めることで家族時間も創出します。



公園と繋がる「つむぎテラス」宅地からコミュニティ拠点へ（中央グリーン開発株式会社）

分譲地の中心に公園を配置し、どの住戸からもアクセスしやすく、子どもたちの様子を自然と見守れる設計としました。四季折々の植栽を配し、季節を感じられる景観を創出しています。さらに、当初の計画から1宅地を減らして、公園の向かいに屋根付きのコミュニティ拠点「つむぎテラス」を創出しました。「重層的な見守り構造」により、子育て世帯が抱える孤立感や防犯、防災の不安を解消しました。



親の余白が子の自律を育む、4つのライフスタイル別量産住宅RAKUYA（ポラスガーデンヒルズ株式会社）

家事効率を最適化し親の「心の余白」を創出することで、子の自律を育む量産住宅のプロトタイプ。シンプルライフ研究家マキ氏との開発により、多様な育児スタイルに対応する4つのプラン（成長・自由・両立・効率）を展開。画一的な間取りを脱却し、変化するライフステージを大らかに受け入れる「選べる建売住宅」の形を提案しています。



今日はどこで何をしよう？「ボーダレスな家」から広がる街（ポラスガーデンヒルズ株式会社）

「今日はどこで何しよう」と子どもの自由な発想が広がる住まいです。ウチソトがボーダレスに繋がり、シェード等で光や視線を制御した安全な住環境を創出しました。3邸の庭を境界なく連続させ、街区全体を公園化することで、遊べる大きさが変化。豊かな自然と触れ合いながら、日々の遊びの中で学びや発見、ワクワクする気持ちが育まれる街をデザインしています。



都市の密集地でものびのび育つ、「ポケットパーク」のある暮らし（ポラスガーデンヒルズ株式会社）

1住戸当たり接道2mかつ四方を囲まれた旗竿地の分譲住宅です。実寸検証に基づき、居住者専用の車の転回スペースとポケットパークの役割を兼ね備えた「共有地」を創出。狭小地ながら高い開放感とプライバシー性を両立し、遊び場が制限された都市部でも、気兼ねなく外遊びができ、子どもがのびのび育つ、日常の風景に溶け込む分譲住宅を目指しました。



フェンスのない5つの庭が、9年かけて『地域の秘密基地』になるまで。（ポラスガーデンヒルズ株式会社）

千葉県松戸市の5邸の住宅と木調格子で囲まれた広場「かこみガーデン」からなる分譲住宅です。対象は子育て世代で、地役権を設けず緩やかな「景観ガイド」のみで運用しています。入居9年が経過した現在、ここは住人が自ら使いこなす安全な遊び場となっており、ハードが促す「共育で」の仕組みが家族を超えた自律的な絆を育んでいます。

